

## 差別解消法、77%「知らない」

### ＝内閣府の障害者に関する世論調査＝

三戸呂 克美

内閣府は、「障害者に関する世論調査」を発表した。それによると、昨年4月に施行された障害者差別解消法を「知らない」と答えた人は77.2%に上った。毎年12月3日～9日の「障害者週間」について知っている人も5年前の調査と比べ減少。障害者施策の周知が進んでいない現状が浮き彫りになった。内閣府の担当者は「さらに情報提供する必要がある」と話している。

障害者差別解消法は、国や地方自治体、民間事業者に、障害を理由にした差別を禁じ、障害者への「合理的配慮の提供」を義務付けている。調査では、「内容も含めて」知っている人と答えた人は5.1%、「法律ができたこと」を知っているのも16.8%に過ぎなかった。

以上ネットニュースより

この内閣府の調査結果を見て驚きと同時になるほどとうなずけることを先日体験した。それは、9月3日に開催された全国頸損連絡会の代表者会議に出席した帰りだ。場所は名古屋駅の地下食堂街である。夕食を取ろうと介助者のHさんと食堂街を散策した。入りやすい店は詰まっているし、せっかく名古屋に来たんだからきしめんでも食べようか、とHさんと探していたら「きしめん専門店のよう店」が見つかった。外から見てもお客さんはいないしテーブルも移動できそうやし、ここに決めようと店に入ると、車いすの方は入り口のテーブルで食べてもらうことになっています、みたいなことを言う。見ると、入り口にあるテーブルには先客がいた。その客は車いすでもなく障害者でもないように見受けられる。中にあるテーブルは空いているので椅子をどけてもらえたら入れますよ、と言ってもその店員はかたくなに入り口の席が空くまで待てという。入口に座ると余計他のお客が入り難くなることをいくら説明しても受け付けずこちらの話を聞こうともしない。帰りの時刻が迫り納得せんまま引き上げたが後味の悪い時を過ごした。

大都市の名古屋市でも、と思ったが今回内閣府が出した調査結果が答えを出しているのだ。我々も機会あるごとに差別解消法を広めていかないと、きしめん屋の店員のような人が増え続けるかもしれない。そうならないうちに、もっと、もっと社会に訴えていく行動を取り続けなければならない、と大きく感じた一日であった。

## もくじ

特集『頸食（けいしょく）～ひとり暮らしに彩りを～』

（米田、土田、島本卓、伊藤靖、山本、橘、もりんちゅう、宮野）・・・2

行事報告「バーベキュー大会は中止となりました」	（米田進一）	19
活動報告「ふれあいフェスタ in 西播磨リハ」	（三戸呂克美）	20
活動報告「第32回リハ工学カンファレンス in 神戸」	（土田浩敬）	21
会員報告「第44回HCR国際福祉機器展」	（島本卓）	22
会員報告「沖縄宮古島LIVE」	（伊藤靖幸）	23
連載「糖尿病」	（三戸呂克美）	25
連載「自立生活はじめました」	（山本智章）	26
連載「Road to Paralympic」	（宮野秀樹）	27
行事のお知らせ		29
入会案内		30